

第 1 分科会

初年次教育が大学教育に果たす役割を考える

分科会概要：

本分科会では、初年次教育を題材とした実践内容、新入生および教員が実感する教育効果、直面する課題を示し、初年次教育の今後を、参加者と共に探ることを目的とする。

初年次教育の内容は、大学の教育理念、学部教育方針によって、様々である。本分科会では、第 1 に学科単位および学科横断型の授業を実施している事例、第 2 に 2 年次生以上の学生が授業運営・改善に参画している事例、第 3 に専門教育への接続とキャリア教育を組み入れた事例、以上 3 事例を報告する。

初年次教育を通して、大学は、多様化する学生それぞれの満足度を上げつつ、教育効果をより高めるために、いかなる創意工夫を行なってきたのか。

本分科会での情報共有によって、今後の初年次教育のあり方を深く考える場を提供したい。

<プログラム>

09:30 趣旨説明

同志社大学商学部 准教授 山下 麻衣 氏

09:35 講演 1. 「社会問題を学ぶ初年次教育—学科単位と学科横断の方法で:東京家政大学の実践例」

東京家政大学人文学部 教育福祉学科 教授 田中（長岡）恵美子 氏

10:05 講演 2. 「学生と教員の協働を軸とした初年次教育：京都産業大学法学部の実践例」

京都産業大学法学部 教授 高畠 淳子 氏

10:35 講演 3. 「職業と学問との融合：和歌山大学経済学部の実践例」

和歌山大学経済学部 教授 長廣 利崇 氏

11:05 質疑応答

第 2 分科会

オンライン授業における学びの成果を

いかに評価するか

分科会概要：

新型コロナウイルス感染症の拡大にともないオンライン授業が急速に広まったことで、大学の授業形態は大きく変化し、学生の学習スタイルも変容した。個々の受講者の学びの様子や受講者全体の理解度をその場その時に把握することが困難なオンラインという授業形態において、定められた学習目標をどのように達成させるか、そのために学習成果をどのタイミングでどのように評価し可視化していくか。こうしたことが大学教育の現場において重要な課題となっている。本分科会では、リアルタイム双方向型授業の実践（講演 1）、オンデマンド教材とリアルタイム質問受付（Zoom）を併用した実践（講演 2）、完全オンデマンド型授業の実践（講演 3）という 3 つのオンライン授業の実践事例について登壇者にご報告いただき、それを「呼び水」とすることで上記の課題について参加者全員で考えてみたい。

<プログラム>

14：00 趣旨説明

京都ノートルダム女子大学 国際言語文化学部 准教授 石川 裕之 氏

14：10 講演 1. 「中規模私立大学における同時双方向型遠隔授業の実践と評価
～1 年生必修教養科目における取り組み～」

京都橘大学 経営学部 専任講師 多田 泰紘 氏

14：30 講演 2. 「オンデマンド授業を通じた繰り返しアセスメントと
リアルタイム質問受付による学習目標到達の試み」

京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 講師 後藤 伸彦 氏

14：50 講演 3. 「学習指導案の作成と改善のための力量形成をめざす授業の内容と評価実践
ー完全オンデマンド型授業における試みー」

滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 木村 裕 氏

15：10 休憩

15：20 質疑応答・全体討論

第3分科会

美術・隔たり・場

分科会概要：

美術表現とは、多分に何らかの物質性にその多くを負っているものである。また、たとえ表現そのものが概念的/情動的なものであったとしても、作品作りのプロセスとは概念の流路そのものを考えたり、組み替えたり、ずらしたりすることに意味を持たせるものである。そのような美術という分野において、遠隔授業という非物質的かつ縛られた情報流路の中での教育実践を迫られる状況から、個々の現場はどんな困難を感じ、あるいは新たな可能性を見出したのか。美術教育がどう変質したのか、これからどう変質して行くのか。コロナという未曾有の事態を経た上で、美術教育がその中から見出した知見を共有する場としたい。

<プログラム>

14：00 趣旨説明

京都精華大学 芸術学部 講師 宮永 亮 氏

14：10 事例紹介1・問いかけ

京都芸術大学 芸術学部 講師 山城 大督 氏

14：20 ディスカッション

14：35 事例紹介2・問いかけ

京都精華大学 芸術学部 講師 宮永 亮 氏

14：45 ディスカッション

15：00 休憩

15：10 事例紹介3・問いかけ

東京藝術大学 美術学部 非常勤講師 村山 悟郎 氏

15：20 ディスカッション

15：35 質疑応答及び、登壇者同士でのコメント、総合ディスカッション

16：00 分科会終了

<交流会> ※交流会への参加は任意です

16：00～16：30

本分科会は美術領域の教員に登壇者を絞って開催することもあり、報告を聞くだけでは中々難解な部分もあるかもしれません。

参加者の方々にはざっくばらんにご質問を頂き、領域横断的な交流な場としたいと思います。

第4分科会

これからの大学広報

——《教・職・学・卒》が創発し合う場を育む

分科会概要：

大学の現場では「広報」と「宣伝」が混然となっている。と同時に、組織的には「一般広報」と「入試広報」とが縦割りで、相互の連携が取れていない。何を目指す広報なのか、誰が誰に対して広報するのか曖昧なまま、多額の「広告費」を無駄に流出させてしまっている学校が少なくないのではないか。

ポストコロナ／ハイブリッド教育の時代は、大学が「本質的に」社会に開いていく時代だ。教職員による教育活動、学生の学修活動、そして卒業生の社会活動が相互に創発することを通じて、各大学の価値が創出されていく。

そのような時代の大学広報のあり方を語り合いたい。

<プログラム>

- 14：00 趣旨説明
龍谷大学 社会学部 准教授 築地 達郎 氏
- 14：10 講演 1. 「大学にとって戦略的な Web デザインとは何か」（仮）
京都大学 情報環境機構 IT 企画室 助教/Web 戦略室 マネージャー
小野 英理 氏
- 14：40 講演 2. 「一般広報と入試広報 統合の試み」（仮）
学校法人学習院 総合企画部広報課/大学学長室広報センター 課長 西村 圭 氏
- 15：10 休憩
- 15：20 講演 3. 「今ここにある危機と大学の好感度について」（仮）
追手門学院大学 理事長室広報課 課長／日本広報学会 理事 谷ノ内 識 氏
- 15：50 総合討論 「開かれた大学づくりと広報」
- 16：30 分科会終了

<交流会> ※交流会への参加は任意です

16：30～17：00

パネルディスカッション終了後、名刺交換会的な交流会を行います。実務面でのお悩みを共有し、広報活動の改善に役立てたいと思います。ブレイクアウトルーム機能を用います。カメラオン可能な服装でご参加ください。

第5分科会

with コロナ時代の「留学」どうする？

分科会概要：

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な広がりから1年半以上が経過し、ワクチン接種が進む国々では感染を予防しながら日常生活を送る「with コロナ」時代を迎えており、社会経済活動の再開や活性化が期待されている。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大は学校や学習の場にも大きな影響を与え、様々な課題を浮き彫りにした。その一つが「留学」である。未だに各国では入国制限や入国後の行動制限措置がとられており、海外からの留学生が日本に入国できない、日本の大学生も海外への留学が決まったのに日本を出国できないなど、留学が難しい状況が続いている。最近では「リアル留学」に代わって「オンライン留学」というニューノーマルな留学プランもスタートしている。分科会では、教職員、学生とともに「with コロナ」「ニューノーマル」時代における「留学」の可能性と課題について考えてみたい。

<プログラム>

09：30 趣旨説明

佛教大学 社会福祉学部 講師 孔 栄鍾 氏

09：40 講演 1.「大学における留学交流の魅力」

茨城キリスト教大学 生活科学部 助教 呉 恩恵 氏

10：10 講演 2.「国際交流課からみるコロナ禍の留学への影響～現状と今後の展望～」

佛教大学 国際交流課 課長 中村 真美 氏

10：40 ディスカッション

佛教大学大学院 社会学研究科 修士課程 1年 PHUNG THI DIEM KIEU 氏

佛教大学 文学部 中国学科 3年 久保 有佳里 氏

佛教大学 社会福祉学部 社会福祉学科 1年 権 兌研 氏

11：10 休憩（質問・コメントの受け入れ）

11：15 質疑応答

第 6 分科会

健康・スポーツ・医療の現場で活躍できる

人材教育の「場」の再考

分科会概要：

健康・スポーツ・医療に関わる大学は、様々な指導者資格（健康運動指導士等）や国家資格（看護師等）を取得した、現場で活躍 できる有能な人材の育成を担っている。一人ひとりの「人（一般人、アスリート、患者等）」と関わるこれらの領域では、実際に現場 に出て多くの事例を体験することが非常に重要である。しかし、コロナ禍で現場実習が様々な制限を受け、従来通りの実習を 行うことが困難になる中で、課外活動、学内実習、オンライン実習を活用した実習など様々な新たな工夫が行われてきた。様々な 取り組み事例やその利点などを紹介していただき、これからの人材教育の『場』について考えたい。

<プログラム>

9：30 趣旨説明

京都先端科学大学 教授 谷口 有子 氏

9：35 講演 1.

「ストレングス&コンディショニングコーチ育成に向けた取り組みと今後の展開」

京都先端科学大学 准教授 石井 泰光 氏

10：15 講演 2.

「オンライン実習から臨地実習まで一看護学生をそだてる看護学科の取り組み」

京都先端科学大学 講師 那須ダグバ 潤子 氏

10：55 休憩

11：00 講演 3.

「教育・研究・地域貢献を連携させた健康運動指導者の育成事例
～コロナ禍で気づいたこと～」

国際武道大学 教授 井上 哲朗 氏

11：40 質疑応答

第7分科会

コロナ禍における保育士養成 —学外実習の学びの意義の再考—

分科会概要：

本分科会では、コロナ禍における保育士養成の学外実習がどのように行われており、また、今後どのように取り組んでいくべきか、その学びの意義を再考する。

新型コロナウイルス感染拡大によって保育士養成における学外実習を通常通りに実施することが困難となるケースがあるため、①保育士養成における学外実習の位置づけと②学外実習の取り組みの実際について話題提供することで、保育士養成における学外実習の学びの意義を再考するための意見交換を行い、理解を深めたい。

＜プログラム＞

14：00～14：10 趣旨説明

大谷大学 教育学部 教授 安田 誠人 氏

14：10～14：40 講演 1. 「コロナ禍の学外実習について」

関西福祉科学大学 教育学部 教授 新川 泰弘 氏

14：40～15：10 講演 2. 「学内演習の取り組みについて」

びわこ学院大学 教育福祉学部 専任講師 榎本 祐子 氏

15：10～15：20 休憩

15：20～15：50 講演 3. 「学内演習の取り組みについて」

大阪千代田短期大学 幼児教育科 准教授 本田 和隆 氏

15：50～16：20 講演 4. 「コロナ禍の学外実習について」

桜美林大学 健康福祉学群 助教 大村 海太 氏

16：20～16：30 休憩

16：30～16：55 意見交換

16：55～17：00 まとめ

※なお、時間は目安であり、若干変更になる場合があります。

第 8 分科会

初年次教育の「場」とは何か？

： 3 大学のコロナ以前・以後の事例を通して

分科会概要：

初年次教育は、どの大学等にとっても、高校と大学の接続をする重要な科目として位置づけられている。ただし大学等によってその目的や方法は様々で、それぞれが特色ある授業を展開している。このたび、新型コロナウイルス感染症禍により、初年次教育の授業の多くがオンライン化を迫られることになった。オンライン化により、学生、教員ともにメリット、デメリットのいずれも感じていると思われる。本分科会では初年次教育のオンライン化の様々な事例を通して、そのメリット、限界等を客観的に捉えつつ、これからの初年次教育の「場」のあり方について考えたい。

本分科会は次のように構成される。まずは 3 つの大学の教員にそれぞれの大学の初年次教育の目的、方法、特色等や新型コロナウイルス感染症禍での経験等を具体的に報告いただく。その後、パネルディスカッションを行い、参加者の皆さんとの質疑応答を通して、このテーマを深めていく。

<プログラム>

- 14 : 00 趣旨説明 京都産業大学 生命科学部 教授／
教育支援研究開発センター 副センター長 白鳥 秀卓 氏
- 14 : 05 講演 1. 京都産業大学 文化学部 教授 鬼塚 哲郎 氏
- 14 : 45 講演 2. 京都薬科大学 分析薬科学系 教授 武上 茂彦 氏
- 15 : 25 講演 3. 明星大学 人文学部 教授 菊地 滋夫 氏
- 16 : 05 総合討論（パネルディスカッション）

第 9 分科会

通信制大学と通学制大学の境界

分科会概要：

コロナ禍により通学制の大学においても、いわば強制的にオンライン授業を経験することとなったが、そのことにより、オンライン授業が今後の大学教育の一つの方法として、実感をもって認識されるようになった。令和3年7月、日本私立大学連盟は、『ポストコロナ時代の大学のあり方～デジタルを活用した新しい学びの実現～』の中で「卒業要件にかかわるオンライン授業による修得単位数の上限は撤廃すべきである。」との提言を行っており、今後、通学制と通信制の境界はあいまいになっていく可能性がある。

本分科会では、まず、日本通信教育学会の会長である鈴木氏より、そもそも通信制大学と通学制大学の区分とは何なのかについて整理いただいたのち、大学設置基準上の「授業の方法」の区分の限界、学生層の変化、学費といった観点から議論いただく。次いで、八洲学園の理事長である和田氏より、2004年に通信教育課程のみを置くインターネット大学を日本で初めて開学した経緯と設立理念について話題提供いただく。最後に、通信制大学の実態に詳しい寺尾氏より、通信制大学のスクールライフや、通信制大学に特有の観点として抑えておくべきポイントを整理いただく。

これらの議論から、「授業の方法」による区分が今後も意味をなすのか、また、改めて通学制の大学であるということにはどのような積極的な意味があるのかといったことを参加者を交えて議論する。

<プログラム>

14：00 趣旨説明

京都大学 准教授 田口 真奈 氏

14：05 講演 1. そもそも「通信制」と「通学制」の区分とは何か

桜美林大学 教授 鈴木 克夫 氏

14：45 講演 2. 通学制大学は残れるのか？ 一小売業をヒントにー

学校法人八洲学園 理事長 和田 公人 氏

15：25 講演 3. 「通信制」と「通学制」の境界を見極めるために必要な視野・視座・視点

神奈川工科大学 学生支援本部教務課 課長代理／

一般社団法人大学行政管理学会 教育マネジメント研究会 サブリーダー 寺尾 謙 氏

16：05 休憩

16：15 ディスカッション

17：00 分科会終了

<交流会> ※交流会への参加は任意です

17：00～17：30

分科会での議論を踏まえた気軽な意見交換の機会をもちたいと思います。4～5人のグループで15分程度、分科会のご感想やご意見を交換していただき、その後、全体共有いただければと考えています。

第 10 分科会

学生支援の「場」を問い直す

～コロナ禍での現状と課題～

分科会概要：

コロナ禍において、我々の生活様式は大きく変化した。大学においては、これまで「対面」が当たり前であった授業が「オンライン」で行われるようになり、授業における ICT 活用が積極的に推進されている。このような「場」の変容は、学生支援の現場でも起こっている。対面での相談が困難な状況の中で、学生支援はどのように行われているのだろうか。また、コロナを経て、今後学生支援の「場」や実践活動はどのように変容していくのだろうか。

本分科会では、コロナ禍で学生支援に携わってきた先生方に、対面およびオンラインでの学生支援の実践例をご紹介いただき、今後の学生支援における「場（キャンパス）」の意義について議論していただく。

<プログラム>

9：30 趣旨説明

京都文教大学 臨床心理学部 特任講師 浦野 由平 氏

9：35 講演 1. 「学生支援におけるキャンパスという『場』の意義」

甲南大学 文学部 教授／学生相談室専任カウンセラー 高石 恭子 氏

10：05 講演 2. 「コロナ禍での実践例①：学生相談の現場から」

成蹊大学 学生サポートセンター学生相談室 専任カウンセラー
(経営学部 教授) 林 潤一郎 氏

10：35 講演 3. 「コロナ禍での実践例②：障がい学生支援の現場から」

京都文教大学 障がい学生支援室 職員 藤原 めぐみ 氏

11：05 質疑応答：講演者とフロアから

第 11 分科会

大学教育におけるつながりのリ・デザイン

分科会概要：

今後の少子高齢化社会及びグローバル化の進展の中、高等教育機関にもまたその存在意義の問い直しが求められています。また、大学等連携推進法人制度の導入準備も進み、個々の大学の個別の実践だけでなく、大学間連携による質の向上も課題の一つとしてあげられます。本分科会では、地域特性を反映した学びの場づくりの実践として各地で展開されてきた単位互換制度に関する大学コンソーシアム京都による全国調査の結果をもとに、大学教育に関するネットワーキングの未来を展望します。

<プログラム>

9：30 趣旨説明

立命館大学 共通教育推進機構 教授 山口 洋典 氏

9：40 調査報告「各大学等における単位互換等のあり方調査」

京都大学 情報部 掛長 中元 崇 氏

10：00 結果解題「質保証・大学評価の観点から見た単位互換の未来」

広島市立大学 企画室 特任助教 山咲 博昭 氏

10：20 コメント

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 統括コーディネーター
中水 かおる 氏

10：35 休憩

10：45 論点整理

10：50 総合討論

11：20 まとめ

第 12 分科会

ハイブリッド授業が一般化する時代の 情報システムと教室デザイン

分科会概要：

「ハイブリッド授業」が常態化する時代を迎え、「教室」という場の役割が根源的に問い直されようとしている。本分科会では、これからの教室のあり方について「デザイン」の観点からスポットライトを当てる。オンライン授業に用いられる様々な情報システムのデザイン、リアルな教室設備のデザイン、それらを構築する組織のデザイン、そしてカリキュラムのデザイン——。これらを統合的に議論したい。

<プログラム>

- | | |
|---------|---|
| 9 : 30 | 趣旨説明
龍谷大学 社会学部 准教授 築地 達郎 氏 |
| 9 : 40 | 講演 1. 「ハイブリッド時代の学習環境デザイン」(仮)
東京大学 大学院情報学環 学環長／教授 山内 祐平 氏 |
| 10 : 10 | 講演 2. 「北海道 3 大学統合に向けた多拠点遠隔授業運営への挑戦」(仮)
北見工業大学 副学長／情報通信系 教授 榮坂 俊雄 氏 |
| 10 : 40 | 休憩 |
| 10 : 50 | 講演 3. 「『30 日で 600 教室をハイブリッド化』はいかにして実現したのか
——立命館大学における事例を中心に」(仮)
シュア・ジャパン株式会社 インテグレートッド・システムズ事業本部長／
シニアディレクター 大友 裕己 氏 |
| 11 : 20 | 総合討論 「『ハイブリッドな学習環境』とは何か。いかに実現できるか」 |
| 12 : 00 | 終了 |